


 CHAPTER
6

たかはし修司 栃木県アジェンダ

ゆとり・やすらぎ

21世紀は「環境の世紀」といわれています。本県においても良好な地域環境を保全し温暖化防止を始めとする環境保全活動を推進する必要があります。

森林資源・家畜排せつ物や林地残材などのバイオマス資源、小水力発電に適した農業用水路、温泉の源泉を豊富に有し、また冬の日照時間の長さは全国有数です。こうした再生可能な資源エネルギーの積極的な活用を推進するとともに、二酸化炭素の排出削減にも取り組みます。県土の約55%を占める森林については「とちぎ元気な森づくり県民税」を有効に活用して、元気な森を次世代に引き継いでいきます。

次世代に豊かな自然を
まずは身近なエコから

再生可能エネルギーの積極的な活用

山林の手入れ(森林再生)により得られる木質バイオマスを活用し、発電やエタノールを生成する「資源循環型地域再生事業」(那須野ヶ原モデル)に、主体的に取り組めます。また、再生可能エネルギーの積極的な活用を推進し、新たな資源循環型の地域再生モデルを全国に展開します。

減らす・繰り返し使う・リサイクルの3R社会の推進

ゴミ資源の発生抑制・再利用・再生利用の働きかけを広く行い、地域主導での3R社会の実現に積極的に取り組みます。

「とちぎの元気な森づくり県民税」の用途拡大

「とちぎの元気な森づくり県民税」の用途を拡大し、林業従事者の育成や間伐材の利活用などの林業関連の仕事おこしにも活用します。

エコポイント制度の拡充

エコポイント制度を家電・自動車・住宅のみならず、各種事業に拡充し、地球温暖化対策や経済の活性化を推進すべく国に要請します。

希少な動植物の生態系の保全と再生への取り組み

絶滅の恐れがある希少な動植物を守るために生態系の調査や保全地域の指定、外来種の駆除などを行い、生態系の保全と再生に取り組めます。

生活環境を整え
暮らしにゆとりを

安心ある地域社会の取り組みを支援

近年の犯罪の増加や凶悪化の傾向を踏まえ地域社会においてお互いに助け合いながら防災・防犯活動を行う取り組みを支援し、絆ある地域社会をつくります。

歩道や信号機の整備を積極的に推進

「くるま社会」の本県において、通学路等の未整備の県管理道路は、430km(平成22年度末)に達しており、交通事故の危険にさらされています。児童生徒や高齢者への対応も不十分であり歩道の整備や信号機の設置に力を入れます。

気象災害に備える河川改修の取り組み

近年頻発する「ゲリラ豪雨」に備えて、県の「河川整備計画」に基づく河川改修に計画的に取り組めます。また、河川水位情報やハザードマップの提供といったソフト面の対策により、地域住民の速やかな避難誘導を行い、被害を未然に防ぎます。

公立小中学校の耐震化を支援

地震時の避難所としても利用される公立小中学校の耐震化について、市町の取り組みを支援します。

「コンパクトシティ」構想の促進

都市機能を中心市街地を集めて公共投資を効率化する「コンパクトシティ」の構想に基づいた商店街の振興と中心市街地活性化を図ります。

 たかはし修司 栃木県アジェンダ
重点項目⑤

幹線道路のネットワーク化

本県と、首都圏や東北地方との連携を一層強化するため、広域的ネットワークを形成する幹線道路の整備に取り組めます。

〈幹線道路の整備促進〉

東北道宇都宮I.C.以北の6車線化を促進するとともに、成田空港へのアクセス道路となる地域高規格道路の整備促進に引き続き取り組めます。

〈既存ストックの積極的な利活用〉

高速自動車道におけるスマートI.C.の整備促進を図るなど、既存ストックの利活用にも積極的に取り組めます。



CHAPTER

7

たかはし修司 栃木県アジェンダ

ぬくもり・潤い

安全・安心を基本に、豊かな自然を保全しながら、生活道路・上下水道・交通網などの社会基盤の整備を行い快適で美しい生活環境をつくります。